

発達障害児の集団療育に関する研究

分担研究：発達の観点から見た療育指導の在り方に関する研究

研究協力者：小西薫¹

共同研究者：輿河かおり¹、江口歩¹、星山伸夫²

要約：国内における発達障害児の療育指導の現状を調査するために、代表的な療育施設7カ所についてアンケート調査を行なった。その結果ほぼ全施設で集団指導が行なわれていた。集団療育はさまざまな訓練士が単独で行なっているもの、多職種が合同で行なっているものの二つの形態があった。どちらの形態にせよ作業療法士が集団療育のなかで比較的重要な役割を果たしているのが明らかであった。対象疾患は自閉症だけでなく、脳性麻痺、学習障害、精神遅滞まで多岐にわたっていた。指導内容については単に集団で行なっているものが多く、集団の意味（グループダイナミックス）を理解していると思われるものは少なかった。

見出し語：集団療育、発達障害児、グループダイナミックス

緒言：最近、療育指導のなかで集団療育の効果が強調されるようになり、さまざまな施設で集団療育が行なわれるようになってきた。指導内容は、感覚運動面や認知面等の機能・要素的側面への働きかけを集団で行なうもの、集団の意味（グループダイナミックス）を意識したものの生活体験の拡大をはかるもの等さまざまである。今回の研究では、代表的な療育施設7カ所についてアンケート調査を行ない、発達障害児の療育指導の現状を分析し、療育における集団指導の在り方を検討する。

研究方法：代表的な療育施設7カ所（公立4、私立3）についてアンケート調査を行ない、スタッフ、対象児、療育指導の内容等の現状を把握し、分析した。

結果：

①施設の概要について

- 1) 療育スタッフはすべての施設で多職種であり、医師、看護婦、理学療法士（PT）、作業療法士（OT）、言語療法士（ST）保母、心理判定員を含む。
- 2) 1日当たりの療育人数
30人から200人以上、100人以上は4施設である。
- 3) 対象としている障害
脳性麻痺（CP）、知能障害（MR）、自閉症（Au）、学習障害（LD）

②集団指導について

6施設で実施

- 1) 訓練士が単独で行なっているもの
 - (A) PTが単独で行なっている・・・1施設
対象：CP、MR
 - (B) OTが単独で行なっている・・・6施設
対象：CP、MR、Au、LD
 - (C) STが単独で行なっている・・・3施設
対象：MR、Au、LD
- 2) 多職種が合同で行なっているもの
 - (A) PTと保母・・・・・・7施設
 - (B) OTと保母・・・・・・7施設
 - (C) PTとOTと保母・・・・・・5施設
 - (D) STと保母・・・・・・4施設
 - (E) OTとSTと保母・・・・・・3施設
 - (F) PTとOTとSTと保母・・・・2施設

考察：

ほとんどの施設でなんらかの形で集団療育が行われていた。訓練士としてはOTがその主流となっているような傾向が見られた。しかし、集団訓練といっても訓練士と保母というパターンが多く、グループダイナミックスを取り入れた本格的な集団療育が行なわれているところは少なく、むしろ訓練士の数の不足をカバーするために集団療育を取り入れているところが多いように思われた。発達障害児の療育はその社会性の向上を目的とすべきである。そのためには集団で訓練し、お互いが一つの作業を共同して行なうことが大切である。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:国内における発達障害児の療育指導の現状を調査するために、代表的な療育施設7カ所についてアンケート調査を行なった。その結果ほぼ全施設で集団指導が行なわれていた。集団療育はさまざまな訓練士が単独で行なっているもの、多職種が合同で行なっているものの二つの形態があった。どちらの形態にせよ作業療法士が集団療育のなかで比較的重要な役割を果たしているのが明らかであった。対象疾患は自閉症だけでなく、脳性麻痺、学習障害、精神遅滞まで多岐にわたっていた。指導内容については単に集団で行なっているものが多く、集団の意味(グループダイナミックス)を理解していると思われるものは少なかった。